

vol.52-03 (通算 588号)

2022年6月号

# やどかり

2022年6月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

## エンジュ 25年を迎えて

### これからも「食・職」を通して 地域と障害のある人の労働を支える

1997(平成9)年に「食事サービスセンターエンジュ」を開設。精神障害のあるメンバーが地域に住む高齢者や障害のある人などにお弁当を届ける仕事を担ってきた。地域の人たちに支えられながら成長し、今年7月で25年を迎える。

開設当初は、職員もメンバーも手探りで、目の前のことや時間に追われる毎日だった。「責任ある仕事をこなしていく」「安全で質のよい食事を提供する」ことを軸に現在まで続けてきた。この25年間で、配食の提供数は計114万食(2022年3月末時点)に上る。多くの人たちの「食」を支えてきたことを改めて実感する。エンジュのお弁当が、多くの人々の健康を支えている。

エンジュの大きな転換期は、2004(平成16)年、エンジュ弁当利用者20人への状態調査を行ったことだ。この調査から、地域におけるエンジュの役割が浮かび上がった。また、障害のある人の労働を支える事業所として、今後のあり方を示唆する調査であった。エンジュの活動がわずかでも地域の方の暮らしの支えになっていることを確信し、これからの活動の方向性が定まり、現在の活動となっている。

25年経った現在、開設当初からの弁当利用者はいない。しかし、利用者の中には、利用されていた親御さん亡きあと、その子世代が利用を継続されており、「食」を通してつながり続けている人もいる。他にも、以前利用した方が再度利用につながる場合や、配達範囲外に転居となった人からの利用相談、更には利用を継続

する目的で配達エリア内に転居する人もいる。利用する側もエンジュの弁当とのつながりを求めていることが伺える。「食」はその人の命と健康を支え、人が生きていく上で基本であり、「食」を支えることが、エンジュの使命でもある。

そして、エンジュは障害のある人の「働きたい」という希望に対し、1人1人のペースに応じたきめ細かな配慮による働き方と環境づくりを行い、多様で柔軟な働き方が選択できる事業所として役割を果たしてきた。週1日30分働くことでも社会とつながり、配食事業を通して、サービスの受け手からサービスの担い手へと変わる。弁当利用者の「ありがとう」の一言で働く喜びを感じ、働きがいのある仕事となる。また、働くメンバーの中には、一般就労を経験後、あるいは長期入院からの退院後、再利用につながる人もいる。その中の1人は、開設当初からエンジュの主力として業務を担っていたメンバーだ。十数年の長期入院後、「働きたい」という希望して、エンジュで働き始めた。以前のような働き方ではないが、エンジュで働くため、グループホームに入居し、働くことに向けて準備を整えている。以前の仲間と交流しながら誇りを持って働くことが、やりがいとなり、生きる原動力となっている。

これからも「食」を通して、住民、ボランティア、自治体など多種多様な人たちとの協働の関係を築き、食のおいしさと健康を届けられるよう、柔軟かつきめ細かな対応で、地域の人々から信頼されるエンジュとして歩んでいく。